

0理念

目標群

2005年度以降に設定した目標（2003年度に設定した目標を一部修正・追加）

言語コミュニケーション文化研究科は本学の「人間化の徹底」「実学化への志向」「総合化への努力」「情報化への徹底」「国際化の追求」の5つの基本理念のもとに高度な言語コミュニケーション能力を備え、建学の精神に基づく豊かな人間性と国際的・文化的視野をもった、高度の学問的専門性を備えた人材を輩出し、社会に貢献することを理念として掲げる。

高度な言語コミュニケーション能力を養成し、その基盤の上に言語および言語使用の実態を追求する言語科学、言語と深く結びついた文化学、さらに言語コミュニケーションをいかにして効果的に習得させるかという方法論を探究する言語教育学、外国語としての日本語教育の方法を探求する日本語教育学の研究を推進することによって、言語コミュニケーション文化を総合的に研究することを目的とする。

前期課程では、大学院レベルにおける高度な言語コミュニケーション能力の養成と、その基盤の上で言語に関する四つの領域・プログラムで研究をすすめる。すなわち、言語および言語使用の実態を追求する言語科学領域・言語科学プログラム、言語に支えられた文化を研究する言語文化学領域・言語文化学プログラム、言語コミュニケーション能力養成の方法論を探究する言語教育学領域・言語教育学プログラム、外国語としての日本語教育の方法論を探求する日本語教育学領域・日本語教育学プログラムを設定し、研究する。

後期課程では、前期課程で培った幅広い知識と、専攻分野における研究能力を、言語コミュニケーション能力の理論的解明に特化した、高度で先進的な研究へと結実させる。また博士論文作成の指導を通してさらに総合的、専門的に深く研究し、「言語コミュニケーション文化学」の深化、発展に努める。

教育目標および人材育成の目標については以下のとおりである。

- 1) 四つの研究領域による横断的・総合的教育カリキュラムの実施
- 2) 高度な言語コミュニケーション能力の養成
- 3) 実践能力の養成
- 4) きめ細やかな研究指導による研究能力の養成
- 5) 社会人のためのカリキュラムの提供
- 6) 学習環境の整備および学習支援体制の充実
- 7) 言語コミュニケーション文化学会の推進

進捗状況報告

2005年度自己点検・評価で記した改善の具体的方策のうち

- 1) については、言語文化学プログラムのカリキュラム改正のなかで検討中。
- 2) については、実施済み。
- 3) については、建築中のG号館への2008年度移転に伴い、整備される予定。
- 4) については、MDS「言語コミュニケーション文化副専攻プログラム」履修者に対して受験を勧めている。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

・2007年度からの日本語教育学プログラム開設に伴い、大学院要覧に記載している理念・目的・教育目標が修正されたので、その表現に合わせた。
・人材養成の具体像としては、言語を中心とした学問領域の研究者、研究やビジネスにおいて国際的に活躍できる人材、グローバルな視野を持った異文化コミュニケーションの専門家、実践的言語教育方法を身につけた英語教員、国際的に活躍できる日本語教員。

学内第三者評価

2006年度から2007年度にかけて研究科の理念・目的・教育目標を修正しているので、その点について修正の趣旨や理由について説明が必要である。また、ホームページや大学院要覧で公表されている理念・目的・教育目標に、「人材育成の目標」の観点からの記述がやや少なく、人材育成の具体像をより明確にすることが望まれる。この評価項目は、理念・目的とともにそうした人材育成の目標がどのように実現しているかを、課程修了者の進路などから検証することが主旨である。

なお、進捗状況報告で、英語以外の言語に、高度な言語コミュニケーション能力の養成のためのプログラムを開発することを検討中とあるが、プログラム開発の時期的な目安を示すことが望ましい。

なお、特別委員からは以下の意見があった。
・英語を中心とするコミュニケーション能力の養成など大筋では所期の目的を達成してきているので、今後、他言語への挑戦が期待される。
・課題研究、アドバイザー制度などにより細かな指導体制がとられている。他方、修士課程への受験者集めに苦労しているのは何故か自己点検すべきである。
・教員が各学部の外国語教育を担っているという制約があるので急激な改革は望めないが、大学院という観点からいえば市場のニーズを反映するように戦略的な改善案をビルトインしておかなくてはならない。